

明科町史下巻 現代・民俗編 目次

口 絵
例 言
執筆分担

上巻総目次

第一編 自然	第二編 歴史
第一章 総論	第一章 考古
第二章 地形・地質	第二章 古代
第三章 中世	第三章 中世
第四章 近世	

第一編 現代	三 明治初年の村.....
第一章 政治	四 新町村の成立.....
	五 町村沿革表.....
	六 戸長役場 (一)戸長の仕事 (二)連合戸長役場.....
	七 町村制.....
	八 村議会.....
	九 町村制の改正.....
第二編 現代	一 地租改正.....
	二 村財政.....
	三 町村制以後の村政・財政略年表.....
第三編 現代	一 自由民権運動.....
	二 大逆事件と明科.....
第一編 現代	一 沿革略年表.....
	二 行政区画.....

第四節 戰後の政治 元

- 一 戰後の復興、地方自治法による村政 元
- 二 町村合併と発足以後の町政 四〇
- 三 財政運営 廿五

第五節 警察 壴

- 一 沿革 壴
- 二 明科の警察官派出所 壴
- 三 警察の取り締り 壴

第六節 軍事と援護活動 六

- 一 沿革 六
- 二 国民成丁簿・免役連名簿・徵兵検査 充
- 三 日清戦争 充

第二章 福祉厚生・災害

第一節 保健衛生 元

- 一 伝染病患者収容の施設 元
 - 二 衛生活動 元
 - 三 伝染病患者収容の施設 元
 - 四 民間医療機関 元
 - 五 保健婦と助産婦 元
 - 六 入浴施設 元
 - 七 環境衛生 元
- 九 戰没者 元
 - 八 戰時中の思い出 元
 - 七 終戦 元
 - 六 日中戦争から太平洋戦争 元
 - 五 満州事変(日中戦争前) 元
 - 四 日露戦争(シベリア出兵) 元
 - 三 日清戦争 充
 - 二 国民成丁簿・免役連名簿・徵兵検査 充
 - 一 沿革 六

第二節 簡易水道から上水道へ 一〇〇

第七節 滿州開拓 一〇

- 一 芙蓉鄉開拓團 一〇

第八節 滿蒙開拓青少年義勇軍 二〇

- 一 義勇軍の創設 二〇
- 二 割当数の送出 二〇
- 三 訓練所入所 三三
- 四 各中隊の様子 二五
- 五 義勇軍の思い出 二七

第九節 世帯・人口 二九

- 一 世帯・人口の推移 二九
- 二 年齢構成・職業別人口と從業・通学区域の範囲 三三

二 病害	一一一	四 戰時・戰後の農業、農地改革	一一〇
三 旱魃	一一一	五 稲作	一一一
四 凍霜害	一一一	六 麦、雜穀	一一一
五 電害	一一一	七 煙草	一一一
第一二節 農業災害補償制度の沿革と共済組合	一一三	八 養蚕	一一一
第一二節 火災と消防	一一三	九 新たな農業振興作目の経過	一一一
一 火災に弱い往時の環境	一一三	一〇 産業組合・農業協同組合	一一一
二 消防組の沿革	一一三	一一 農業行政機関	一一一
三 警防団の時代	一一三	第二節 林業	一一一
四 消防団の発足と町村合併後の組織や訓練	一一六	一 概説	一一一
五 火災原因	一一九	二 明科町の山林・林業	一一一
六 過去の主な大火とその状況	一一九	三 森林組合	一一一
七 消防組(消防団資料)	一二三	第三節 水産業	一二一
八 出動の記録	一二八	一 むかしの漁業	一二一
九 歴代消防団長	一二八	二 牝川漁業協同組合	一二一
第一節 農業	三五	三 水産指導所の開設	一二一
第四節 工業	三四	四 ニジマスの養殖	一二一
一 立地条件	三五	五 鯉の養殖	一二一
二 江戸時代の農業	三五		
三 明治以後の農業	三五		

三 戰後の復興と工場誘致	一
四 近年の工業概況	二
	三
	四
	五
	六
	七

一 篠ノ井線開通前後の状況	一
二 明科駅前の流通発展過程	二
	三
	四
	五
	六
	七

第四章 灌溉用水・開田・圃場整備事業

第一節 灌溉用水・堰とその管理慣行	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第二節 開田・土地改良・基盤整備事業	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第三節 明科町の主要用水	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第四節 水利権	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第五節 光明科堰	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第六節 内川用水と車屋堰	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第七節 五力用水	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第八節 会田川水系の用水	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第九節 多目的だった溜池	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第十節 耕地整理と客土事業	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第十一節 戦後における開田	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第十二節 共有地としての運営とその解消	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第十三節 県営圃場整備事業	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七

第五章 流通

第一節 明治以後の物資の流通	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第二節 道路	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
第三節 交通・通信	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七

一 輸送の歩み	三	電話	三
二 人力車	二	有線放送	四
三 馬車	三	ラジオ	五
四 タクシー運輸	四	テレビ	六
五 バス運輸	五		
六 トラック運輸	六		
七 交通事故	七		
八 交通安全施設設置状況	八		
第三節 舟運と橋	三		
一 盛んだったころの犀川通船	一		
二 渡船	二		
三 橋	三		
第四節 篠ノ井線	四		
一 難工事をきわめた篠ノ井線	四		
二 西条・明科間の工事	四		
三 明科駅周辺の発展	四		
四 明科・西条間複線化工事	四		
五 蒸気からジーゼル・電化	五		
第五節 通信	五		
一 郵便	一		
二 電報	二		
第三節 文化財・史跡めぐり	三		
一 光地区	一		

第七章 觀光

第一節 明治・大正の娯楽観光

一 鉄道開通で観光開花	一
二 娯楽の殿堂「明科座」	二
三 犀川の舟下り	三

第二節 昭和の観光

一 長野県水産指導所	一
二 明科フィッシングランドと水族館	二
三 町営保養センター長峰荘	三
四 長峰林道	四
五 岩州地帯	五
六 龍門淵公園	六
七 御法田のわさび畑	七
八 観光協会	八

第三節 文化財・史跡めぐり	三
一 光地区	一

二 中川手地区	四六三
三 東川手地区	四六四
四 七貴地区	四六五
五 南陸鄉地区	四六六

第八章 教育文化

第一節 小学校

一 各学校の沿革大要	四九九
二 明治初年の教育	五〇〇
三 教育令の時代（明治一二年～一八年）	五〇一
四 小学校令の時代 前期（明治一九年～三二年）	五〇二
五 小学校令の時代 後期（明治三三年～昭和一五年）	五〇三

第四節 社会教育

一 沿革	五〇四
二 現在の公民館活動	五〇五
三 青少年育成会	五〇六
四 明科町文化財調査委員会	五〇七
五 明科町の同和教育	五〇八

第五節 教育委員会

一	五〇九
二	五一〇
三	五一〇
四	五一〇
五	五一〇

第六節 文化

一 終戦直後の文化団体	五一〇
二 明科町の短歌	五一〇
三 明科町文化協会	五一〇
四 明科町の絵画	五一〇

第二節 中学校

一 昭和二三年小学校に併設	五二一
二 中学校の沿革概要	五二二
三 歴代小中学校長	五二三
四 児童数・学級数の変遷	五二四

第三節 その他の学校教育

一	五二五
---	-----

町立明科町幼稚園

一 町立明科町幼稚園	五二六
二 七貴小学校的就学前教育	五二七
三 穂高農業高等学校川手分校	五二八
四 町立高等家政学校	五二九
五 新設高等学校の状況・北安曇農業高校七貴分校	五三〇

南陸郷地区

一	五三一
---	-----

第九章 宗教

第一節 仏教寺院	五
一 概説	大足諫訪社
二 寺院における開山と開基について	六 潮神明宮
三 真言宗寺院	七 名九鬼藤城社
四 净土宗寺院	八 上生野八幡宮
五 曹洞宗寺院	九 押野正八幡宮
六 日蓮宗寺院	一〇 塩川原高根神社
七 その他仏教系新宗教寺院	一一 萩原萩原神社
八 仏教における戒名・法名・法号について	一二 中村大己神社
第二節 教派神道の教会	一三 小泉和泉神社
一 概説	一四 その他の主な無格社
二 天理教	
三 御嶽教	
第三節 神社神道の神社	
一 概説	
二 光五社宮	
三 塔ノ原庫宮社	
四 明科廣田神社	

第一〇章 美術

第一節 社寺堂宇建築

一 概説	五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四
二 各社寺堂宇建築	一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四

第二節 仏像

一 概説	二六
二 木食山居仏	二七
三 社寺堂の仏像	二八

第三節 江戸時代の半鐘・鉦

一 概説	二九
二 光五社宮	三〇
三 塔ノ原庫宮社	三一
四 明科廣田神社	三二

第一二章 人物・公共施設・団体

第一節 人物

光地区	一	壹
中川手	二	壹
東川手	三	壹
七貴	四	壹
南陸郷	五	壹
第二節 公共施設	六	壹
一 長野地方方法務局明科出張所	七	壹
二 中部電力明科営業所	八	壹
三 虏川砂防事務所	九	壹
四 明科製材所	十	壹
五 明科煉瓦工場	十一	壹
六 明科火力発電所	十二	壹
第三節 団体	十三	壹
一 青年会	十四	壹
二 明科町連合婦人会	十五	壹
三 日本禁煙友愛会明科支部	十六	壹
四 ライオンズクラブ	十七	壹
五 篠ノ井線通勤者通学者同盟	十八	壹

六 塩川原禁酒会	一
七 川手職工組合	二
八 明科料理屋・芸妓屋二業組合	三
六 塩川原禁酒会	四
七 川手職工組合	五
八 明科料理屋・芸妓屋二業組合	六

第一二章 各集落の歩みと産業活動

第一節 汗で築いた郷土集落

第一節 地区ごとの特色と各集落の歩み	一	八〇
一 南陸郷地区	二	八〇
二 七貴地区	三	八〇
三 東川手地区	四	八〇
四 中川手地区	五	八〇
五 光地区	六	八〇
第三節 集落ごとの戸数の変遷	七	八〇
一 江戸時代との比較	八	八〇
二 町村合併後の変遷	九	八〇
三 過疎の状況	十	八〇

第四編 民俗

第一章 年中行事と通過儀礼	六 山・峠・がけ・沢に関するもの	一一一
第一節 年中行事	七 森・原野に関するもの	一一一
第二節 通過儀礼	八 社寺・堂塔・祠に関するもの	一一一
一 出産	九 旧家に関するもの	一一一
二 幼年期	一〇 地名・城館跡に関するもの	一一一
三 成年期	一一 鬼・巨人に関するもの	一一一
四 婚姻	一二 動物・化け物に関するもの	一一一
五 老年期	一三 その他	一一一
六 葬式	第三章 童言葉・民謡	一一一
第二章 伝説・伝承	第一節 童言葉	一一一
一 草木に関するもの	第二節 民謡	一一一
二 岩石・岩穴に関するもの	第三節 俗信・諺	一一一
三 地蔵に関するもの	第四節 大足平の祭り囃子	一一一
四 塚に関するもの	第五節 生活の変化	一一一
五 水に関するもの	第一節 明治末～昭和初期の衣類	一一一
	第二節 食習に関する調査	一一一

第三節 住居の変化	〇四	第四節 戦没者・開拓団員名簿	〇六
第四節 日常生活と時間	〇六	第五節 歴代三役名簿	三三
第五節 戦前の子どもの遊び	〇七	第六節 年表	二五
第六節 水車	〇八	町史協力者名簿	
第七節 戦時下の窮乏生活	〇三	追補 日岐大城主丸山氏	
第八節 戰時中の思い出	〇三	あとがき	
第九節 物資の配給	〇一	題字 明科町長 宮下泉一	
第一〇節 値段の変動	〇三		
第一一節 自分の家のうつりかわり調査、家訓	〇五		
資料			
第一節 家紋	〇四		
一 総論	〇四		
二 明科町の家紋	〇九		
三 町内の紋についての考察	〇一		
第二節 家号	〇五		
第三節 講	〇一		